

## B—12 塵埃ヨゴレによる再汚染の研究

大阪市大家政 ○佐藤 昌子  
奥山 春彦  
伯井 睦子

1. 洗たく浴からのいわゆる再汚染現象には種々の要因が作用し、まだじゅうぶん解明されてはいない、本実験はビルの清掃会社の集めた塵埃をモデル汚れとして再汚染を繰り返して各条件間の差を累積拡大して各要因の水

準間の差を評価しようと試みた。

2. 塵埃の懸濁液によって汚染布をつくり、その塵埃汚染布20枚に白布2枚を加えターゴトメーターで洗浄し白布を再汚染した。洗剤はABS(アニオン性)とノニルフェノール型のノニオン性の2種で実験室で助剤を配合したものを用いた。洗剤濃度は0.2%と0.05%の2水準、使用水は $\text{FeSO}_4$ の2 ppmを含む102 ppmの人工硬水である。試験布は木綿およびポリエステル65と木綿35の混紡の2種について行なった。洗浄と再汚染は同一の条件で4回繰り返した。洗浄と汚染の評価は表面反射率により行なった。

3. ノニオン性洗剤は低濃度でも再汚染防止効果があるが、アニオン性は低濃度では再汚染が著しくなる。洗浄効果についても同濃度の比較ではノニオン性のほうがまさっている。なお、洗浄助剤として注目されているポリアクリル酸ナトリウムとトリポリリン酸ナトリウムの助剤としての効果も比較したが、両者間の差は見い出せなかった。